

沼津市青少年教育センター



# たより

平成28年10月号 No. 517

〒410-0881 沼津市八幡町97番地 電話(055)951-3440 FAX(055)952-3300

## 「感染動機」

沼津市立原中学校長 芝 厚

先日、新聞に次のようなコメントが掲載されていて目に留まりました。

社会学者の宮台真司先生、著書の中で学習意欲を生み出す『三つの動機』を挙げておられます。一つ目は『競争動機』、つまり勝つ喜び。二つ目は『理解動機』、わかる喜びです。これまで日本ではこの二つばかりが注目されてきたけれど、実は三つ目の動機がある、それは『感染動機』だということです。この人のようになりたいと憧れる、感化されるということです。そして、宮台先生は、感染動機こそが一番強く働く、なぜなら競争動機は勝った瞬間、理解動機はわかった瞬間に満たされるが感染動機は長時間にわたって続くからだと述べています。

感染という言葉には、病気の感染というように負のイメージがあり、『感染動機』という言葉に違和感を持ちましたが、確かに『感染動機』は人を動かす大きな力があると思いました。

負の感染が進行している子にとっては、悪の道に誘う先輩や友人の甘いささやきは引き付けられ、逆に親や教師の説諭は雑音としか感じられない傾向があります。しかし、そのようなねじ曲がった子どもをうまく掴み、寄り添っていく中で、次第に子どもが前向きに取り組み始め、知らず知らずの間に方向を修正していくことができる素晴らしい指導者もいます。そのような方を間近に見ると大変感心するとともに、立場で言葉を発するのではなく、心からその子どものことを思っていて関わる指導者は、いつの間にか正の『感染動機』を与える憧れの存在になります。

一方、指導者である大人よりも憧れの先輩の方が概して影響力が大きいという現実があります。そこで、正の『感染動機』となり得る憧れの先輩たちをたくさん育むことに力を注ぐことが重要であると思います。憧れの先輩がいることによって、「私も」という思いで努力し、上級生になった時には下級生から仰ぎ見られる存在になっていきます。このような正の連鎖ができれば学校として成長していきます。そして、このような正の連鎖が続いていくと教員が配置換えされても、入学してくる生徒が変わっても、そのよさが伝統となり、代々繋がっていくのではないかと思います。このような正の連鎖を生む『感染動機』に満ちた集団づくりを目指したいものです。



# わたしの主張

「わたしの主張 2016 静岡県大会」で、最優秀賞を受賞した作品を紹介します。

## 笑顔で見合わせて

ゆっくりと顔を上げ、相手の手元を見つめる。宙に浮く球。来る！しかし、球はラケットの側面に当たり、あらぬ方向へ。そして、飛んで行った球は隣で試合をしている人の頭にぼこんと当たりました。「ふっ。」思いがけない出来事に、私たち二人は顔を見合わせて笑ってしまいました。

中学校で卓球部に所属している私は、週に二回ほど卓球教室に通っています。そこには聴覚支援学校の生徒も通っており、私たちは試合や練習を一緒に行っています。私は聴覚障害者である彼女と初めて試合をしたとき、どう接すればよいのか分からず、何のコミュニケーションも取れませんでした。その日、家に帰ってからなんとなくそのことが気になり、何かコミュニケーションをとる方法があったのではないかと考えてしまいました。そして、自分なりに考えた結果、次こそはジェスチャーを使ってコミュニケーションを取ってみよう決心しました。

次に試合をしたとき、私は早速それを実践してみました。ミスをしてしまったら手刀を切って謝ったり、サーブ権がわからなくなってしまったときは、球を相手や自分に向けてどっちと訊いたりしました。すると相手側もジェスチャーで反応してくれるようになりました。私はその子と心を通わせることができた気がして、コミュニケーションが取れたことをとても嬉しく思いました。そうしていくうちに、試合の中で珍プレーがあったらお互いに顔を見合わせて思わず笑うようになりました。「障害とは、実は障害者自身が持っているものではなく、障害者の行動を妨げている社会の環境の方にある」私はこのような文章をインターネットで見つけました。「大多数の人のための設備や、障害があるということに対する周囲の目が本当の障害である」という意味でした。この文章を読んで、私は気づきました。私の「障害のある人のためにどうしたらいいんだろう」と考える行為自体が、障害のある人との間に壁を作っていたということに。今、社会では、障害者雇用のための動きが進められています。2015年には、障害者雇用率が1.8パーセントから2パーセントへ引き上げられました。しかし、実際の雇用率は1.76パーセントと、引き上げ前の数値にさえ及んでいないのが現状です。原因の一つとして、

## 門池中学校 3年 持田朋花

障害のある人にはそれぞれどのような仕事があるのか、判別しづらいということがあります。適性に合わない業務では、やる気が保てず、企業としても必要な人材とは言いがたくなり、退社となるケースも少なくないそうです。しかし、その一方で、障害がありながらも障害の無い人以上に活力を持ち、仕事をしている人たちもいます。その人たちは「重度障害者の働ける場を作りたい」という思いから、自ら会社を立ち上げました。小さい頃から身近にあったコンピュータを使って、ウェブサイトやアプリの制作をしています。



彼らは自分たちにできる「コンピュータを使う」ことを最大限に生かして仕事をしています。個々の長所を見極め、それを生かすことができれば、働くときも障害の有無は関係なしに活躍できることが分かります。得意なことを生かせる環境作り。これが進めば障害のある人はもちろんない人も、全ての人たちにとって望ましい世の中が生まれるはずで。

日頃、私たちはお互いに助け合いながら生活しています。それは「他の人を助けよう」と意識してやっていることではなく、自然に行っていることです。だから「障害があるから」と考える必要はなかったのです。私は普段部活でプレーしているときでも周りがうるさくて相手の声が聞き取りづらいたときはジェスチャーを使います。

しかし、その行為はごく自然にやっていることでした。つまり私が特別考えなくても、コミュニケーションは取れたはずなのです。真の共生社会とは、障害者、健常者問わずどんな人にも優しい世の中です。それは互いの長所を活かし短所を補い合うことで生まれます。誰とでも自然にそうできるようになることが、世の中をより良くするカギになるのではないのでしょうか。

飛んでいった球を拾い、彼女は私を見ました。「いくね」と笑顔で伝え、球を私へ向かって投げてくれます。今度は私のサーブです。私たちのラリーの音が心地よく心に響きます。

# 面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など  
 青少年に関する面接相談。  
 ◎相談および申し込み受付時間：  
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）  
 ◎相談申し込み：Tel.951-3440

## 平成28年7月・8月・9月の状況

7・8・9月には新たに申込みがあった13件（7月5件、8月1件、9月7件）  
 を含め、43件（延べ相談回数246回）の相談に応じました。

### 1 相談内容別新規相談件数

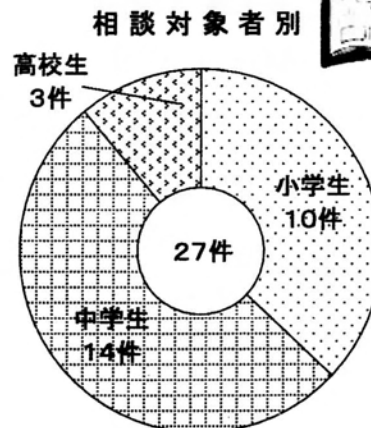
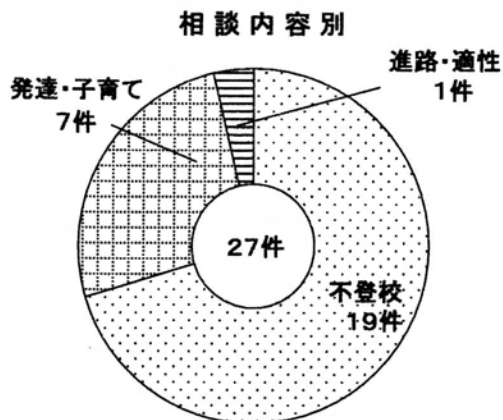
	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
7月	0	3	2	0	0	0	5
8月	0	1	0	0	0	0	1
9月	0	6	1	0	0	0	7

### 2 相談対象者別

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
7月	0	4	1	0	0	0	5
8月	0	0	1	0	0	0	1
9月	0	1	5	1	0	0	7

### 3 今年度の新規相談受付状況

受付件数 27件 （前年同期 28件）



#### 4 7・8・9月の相談件数（新規及び継続）

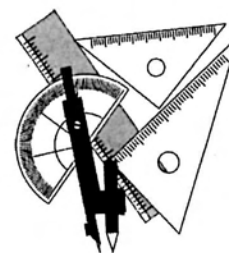
対象	性別	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	男							0
	女							0
小学生	男		4	4				8
	女		2	3				5
中学生	男		13	2				15
	女		12					12
高校生	男		1					1
	女		2					2
少年	男							0
	女							0
一般成人	男							0
	女							0
計	男	0	18	6	0	0	0	24
	女	0	16	3	0	0	0	19
男女合計		0	34	9	0	0	0	43

#### 5 7・8・9月の相談回数（43件の相談延べ回数）

月	性別	面接	訪問	その他	合計
7・8・9月	男	119	8	2	129
	女	106	4	7	117
	計	225	12	9	246

#### 6 相談指導学級の様子

1学期終業式の翌開級日に相談指導学級も終了し、夏休みに入りました。夏休み中は相談指導学級を可能な限り開級し、通常と同様の活動を行い、自らが計画を立てて過ごしました。進路のことを考えながら熱心に学習に努めている生徒やゆっくりと休養をとり、リフレッシュする生徒の姿がありました。



2学期の始業式には、担任の先生方からの働き掛けもあって全員が登校しました。学校復帰に向けての通級生の前向きな気持ちが感じられました。その後も、1日に1時間などと時間を決めて登校する生徒や、進学に向けて一念発起、ほぼ学校に復帰した生徒などがいます。どの生徒も自ら考えて学校への登校を始めましたが、登校へのストレスがない訳ではありません。

学校との連携を図りながら学校復帰に向けて、今後も心理的負担のない支援を続けていきたいと思います。

# 電話相談



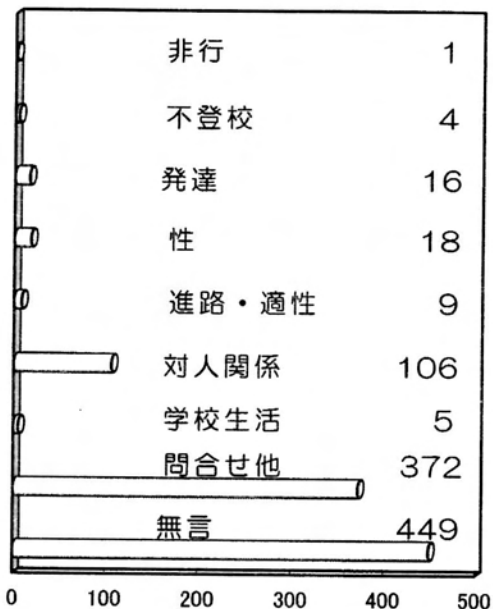
◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など  
 青少年に関する相談。  
 ◎相談時間：午前10時～午後7時  
 月～金曜日（祝祭日を除く）  
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

## 平成28年7月・8月・9月の状況

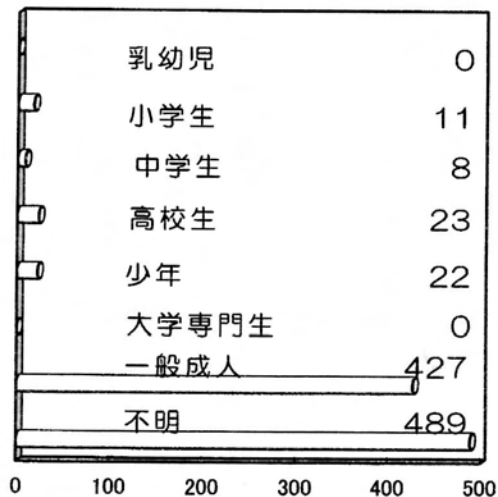
7月には212件、8月には379件、9月には389件の相談が寄せられました。  
 （前年7月：249件、前年8月：294件、前年9月：409件）

### 1 7・8・9月の相談状況

相談内容別件数



相談対象者別件数



### 2 今年度の電話相談受信件数状況(平成28年度)

総件数 1,696件 （前年同期 1,533件）



#### (1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	2	10	32	33	49	196	14	586	774

#### (2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	23	17	38	84	1	697	836





# 『司馬さんの遺言』

静岡県立沼津東高等学校 渡辺洋介

国民的作家として有名な司馬遼太郎氏が、生前、唯一子ども向けに書いた随筆があります、「司馬氏の遺言」とも言われる『21世紀に生きる君たちへ』（世界文化社出版）という本。小学校5、6年生向けの国語の教科書に掲載されたこともあります。短い随筆ですが、これまで大人向けで歯ごたえのある小説・随筆を書いてきた司馬氏が、初めて子供向けに書いたという話題性と、その無駄のない文章から、多くの人に読まれた名文です。

(…略)

「二十一世紀にあっては、科学と技術がもっと発達するだろう。科学・技術が、こう水のように人間をのみこんでしまってはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしっかりした自己が、科学と技術を支配し、よい方向に持って行ってほしいのである。」

(…略)

「もう一度くり返そう。さきに私は自己を確立せよ、と言った。自分にきびしく、相手にはやさしく、とも言った。いたわりという言葉も使った。それらを訓練せよ、とも言った。それらを訓練することで、自己が確立されていくのである。そして、“たのもしい君たち”になっていくのである。」

私は、機会のある度一例えば、ホームルームや部活動でのミーティング、子どもが字を読めるようになったタイミング、などでこの本の話や文章を引用します。春秋に富み、これからの時代を背負う生徒や子どもへのエールとして。また、この本を読むたびに、一人の大人として自己を振り返り、学び続けているかを自問自答させられます。私自身が、文中に登場する「頼もしい人」となるべく訓練し、「二十一世紀に生きる大人」として生徒、子どもに向き合っているのか、と。

## 1 少年補導委員の延べ参加人数（7月～9月）

	市職員	教員	女性 補導委員	母親 補導委員	地区代表 補導委員	警察	地区 補導委員	総数
7月	8	13	6	9	12	1	121	170
8月	8	11	11	7	3	0	539	579
9月	8	9	5	2	7	1	255	287

## 2 補導回数・補導状況（7月～9月）

	補 導 回 数				注意・指導 愛の声かけ	事 後 指 導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
7月	1	7	13	21	210	0	0
8月	3	8	48	59	215	0	0
9月	2	10	34	46	261	0	0

## 3 補導活動（4月からの累計）

補 導 回 数	延べ 参加補導委員数	注意・指導 愛の声かけ	事 後 指 導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
263	2,034	1,136	0	0

#### 4 平成28年7月・8月・9月の街頭補導少年の学職別状況（中央・地区別補導）

夏まつりには多くの方のご協力を得て、補導を展開することができました。この場を借りてお礼申し上げます。昨年と比べ、夜間はいかいの件数は減少しましたが、ゲームセンターへの入場数は大幅に増加しました。特に、小学生の数が増えていることが懸念されます。

なお、行為種別「その他」に計上していた「愛の声かけ運動」（下記の行為に対する注意・指導以外の青少年への声かけ）の件数を、本号から別枠で掲載することとしました。

区分	学職別		小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計	累四月からの計
	性別									
行為種別	飲酒	男								1
		女								
	喫煙	男			2				2	2
		女								
	夜間はいかい	男	1	3	25				29	38
		女	5		39				44	54
	不良交友	男								4
		女								1
	怠学・怠業	男								
		女								
	ゲームセンター入場	男	13	36	87				136	156
		女	11	21	45				77	93
	パチンコ店入場	男								
		女								
	カラオケ店入場	男								
		女								
自転車の暴走行為	男			6				6	8	
	女			1				1	3	
自転車の二人乗り	男		2	2				4	4	
	女						2	2	2	
自転車の無灯火	男			5				5	23	
	女			1				1	6	
危険な遊び	男									
	女									
その他	男		1	3				4	185	
	女		1	6				7	188	
計	男	14	42	130				186	421	
	女	16	22	92			2	132	347	
男女合計			30	64	222		2	318	768	

事後指導	家庭・学校・職場へ連絡	男						0	0
		女						0	0
	他機関へ連絡	男						0	0
		女						0	0
男女合計			0	0	0	0	0	0	

愛の声かけ運動	男	103	68	42	6			219	219
	女	80	46	23				149	149
男女合計			183	114	65	6		368	368

# 「眠り」について考える Part V

= 「眠り」を制することが時間の有効活用 =

人間の活動は「脳」と「脳からの司令を受けた筋肉」の動きにより形成されます。当然、「脳」も「筋肉」同様、使っただけ疲労を生じます。そして、疲労は活動効率を低下させます。

従って、安定した効率的な活動を維持するためには、「活動時間」と「疲労の回復時間」をコントロールしていかなくてはなりません。最善の方法は「ベストの状態での活動」し、「栄養と休息（＝眠り）をベストの効率で摂取」することです。

そこで、前号までに最も有効な「眠り」を作り出すための方策について、Part I では「量的必要性」、Part II では「質」、Part III では「性質（レム睡眠・ノンレム睡眠）」、Part IV では「睡眠パターン」というように4つに分けて紹介してきました。

午前8時から午後5時までの時間帯における活動を重視するのであれば、これまで紹介してきたとおりで問題ありません。

ただ、最も活動力を発揮したい時間が異なる場合には、睡眠の時間帯を考え直す必要があります。Part IV の「活動力曲線」が示すように活動力が最大になるのは、活動を開始してから5時間程度経過した後です。

このようなことから、箱根駅伝の第一走者（8時スタート）は、ベストの状態でのため、午前3時頃には起き出して、コンディションを整える活動を開始します。

もちろん、当日だけ早く起きてベストコンディションを作り出すことはできません。活動時間帯に合わせた「生活リズム」を確立する必要があります。そこで、3週間程度前から調整に入ります。

「眠り」を制することが、能力を最大限に発揮する「鍵」といえそうです。



## センターの活動予定 (11・12・1月の主な活動)

※天候による変更あり

はばたき活動		相談指導学級体験活動	
11月9日(水)	調理実習「たこ焼きパーティー」	11月10日(木)	埋蔵文化財発掘体験
24日(木)	創作活動「クリスマス作り」	17日(木)	史跡見学
12月8日(木)	職業体験活動「ミソ狩り」	12月1日(木)	グループ体験活動(葦山)
26日(月)	創作活動「ミ門松作り」	8日(木)	福祉施設でのボランティア
1月18日(水)	新春お楽しみ会「加々双六」	15日(木)	調理実習活動
補	11月11日(金) 補導委員会代表者会	1月19日(木)	事業所見学・労働体験
	26日(土) 高尾山祭典特別補導	26日(木)	ものづくり体験
導	12月9日(金) 県内一斉冬季補導		

## 明るい子どもが育つまち

青少年健全育成  
シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言 (昭和55年)

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート(心)を表しています。